

通木

Komorebi Tsushin

第22号

平成17年10月
つきだて花工房発
季刊誌

〒960-0903 福島県伊達郡月館町大字下手渡字寺窪7

TEL024(573)3888 FAX024(573)3887

E-mail: hanakobo@safins.ne.jp

休館日/毎月第1、第3次曜日(休館日の前日は17時まで営業)

つきだて花工房ホームページ <http://odehime.or.jp/hanakobo/>

◎つきだて花工房は木もれ日のようなぬくもりとやさしさを持ち続ける皆様の公共施設をめざします。

信もれ日

花のアルバム

アルバムの
22ページ

葛の花

秋は夜空が澄み切って
月の光が冴える季節です
ススキとお団子を供えて
お月見をいたしましょう
月の館で月を愛で
しみじみと、もの想う
そんな時間は
いかがでしょうか

甘い香りの葛の花



秋風の吹く野道をゆつくりと歩いていると、どこからともなく甘い香りが漂ってきました。気がつけばあたりの土手はクズの葉ですっかり覆われており、紅紫色の花が葉の間から見え隠れしています。

クズはマメ科の多年草、日本全土に自生する、つる性の植物です。茎の長さは1年で10メートルを越す場合もあり、明るい方に向かって左巻きにつたう習性があります。この長い茎も冬には枯れてしまい、翌春、根本から新たな芽を吹き出します。

和名の葛は、くずかずらの略、江戸時代に、大和吉野郡国栖村の山びとが葛粉を作って売り歩いたことからつけられました。秋の七草にも数えられるクズは、よく見ると花も葉も美しい形をしています。



日々の暮らしの中で

食を楽しむ春の七草に対し、秋の七草は花を觀賞するものとして日本人の心に息づいています。そして、そのほとんどが人々の生活に密着した植物であり、薬用としても効果的なものばかり、その中でもクズは無駄にするところのない有用な野生植物です。たとえば、柔軟性・耐久性に富むつるは、籠を編んだり縄の代用

にします。また、繊維を用いて織られた葛布という布は江戸時代に武士の袴や甚平にもなりました。根の部分は、よく知られる「葛根湯」の原料です。晩秋に採取した根の皮を取り除き細かく乾燥したものを煎じて服用すると風邪、発熱、肩こり、頭痛などに効果があります。

月を愛でる

アポロ11号が月に降り立ってから40年、名月の夜にススキを飾り、五穀豊穣を月に祈り、感謝する風習が毎年失われてきていることは現代社会においてしかたのないことでしょうか。

月にはさまざまな呼び名があります。「可憐夜」「良夜」「月華」などは、月の光を賞えた呼び名です。また「雨月」「薄月夜」「晦」などは見えない月、見えにくい月に想いを抱く表現で、月と親しんできた日本人の心の奥深さが読み取れます。

今年の仲秋の名月には、クズのつるで編んだ籠に、ススキ・萩・ワレモコウなどの秋草をたつぷりと活け、米粉で丸めた月見団子を飾りました。澄んだ夜空にくっきりと浮かんだ月は、それはそれは美しい月でした。



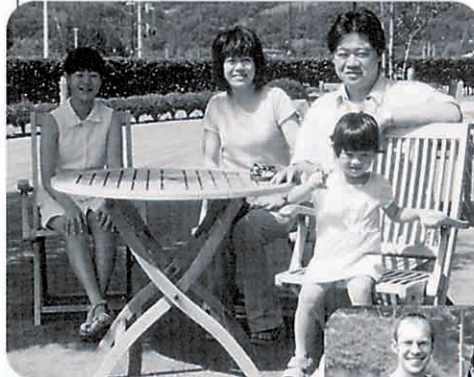
協力●花を活ける/本田 洋子さん
葛製つる籠/瀧田 勉さん

なごみ空間の生まれるよーじ

静かに流れる里山の時間
微笑み合える人との語らい
風景と人がひとつになる時
つきだて花工房に
なごみの空間が生まれます。

あったか家族

奥様のご実家が保原町で中華料理店を営業。「写真ができればお届けしますね」というお約束をまだ果たしていないのでこの通信といっしょにお伺いしたいと思います。



藤田さんご家族 神奈川

welcome Tukidate

月館中学校で英語を教えているブライアン先生のご両親がアメリカ、シアトルからお越しくださいました。優しいご両親がひと目で大好きになりました。お父さんは夢を運ぶサンタクロースのような雰囲気の方でした。

ブライアン先生のご家族



FURUSATO

花工房をあとに、東京に向かう森さんの車には「月館」の2文字。ふるさとへの想いが伝わり、なぜか日頭が熱くなりました。都内を走る「月館号」、見かけた方はお知らせください!

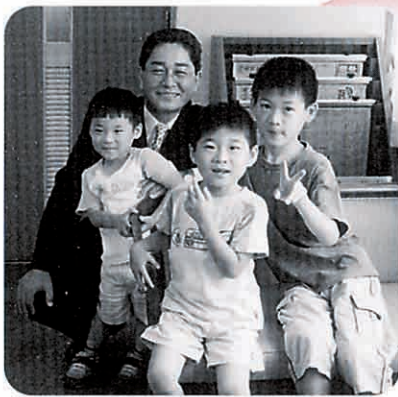


森さん 月館町御代田出身東京都在住

祝いの時間

心に残るひとときをつきだて花工房でお過ごしいただけることはうれしいことです。手づくりの温かい計らいが胸に響く瞬間、家族の尊さを教えていただいた感じがしました。

高橋さんご家族 川俣町



「わくわく
ローカルバスのちいさな旅」
福島駅から最寄りの停留所までの直通バスは、一日に3本のみ、この不便さが田舎旅の楽しみでもあるはず!?。が、埼玉県からお越しの亀谷さんご一家は、その貴重なバスに乗り遅れてしまい、苦労の末のチエックインには徒労の跡が伺えました。
3人兄弟のお兄ちゃん、昆虫博士! 珍しいカブトムシのフィギュアを何種類も持参し、説明付きで見せてくれました。
「それじゃ、本物を探しに行こう!」夏の花工房は昆虫の宝庫です。所長と子供たちは、しばらくして立派な角を持つオスのカブトムシを数匹捕まえてきました。
チエックアウトの朝、子供たちは生きた本物のカブトムシに夢中です。
お母さん「それ、どうするの?」
お兄ちゃん「持って帰る!」
お母さん「えーっ!」無言。
どちらの事情も伝わってくる微笑ましい光景でした。子供たちと所長は来年の夏の再会を約束し、亀谷さんご一家は今度こそ乗り遅れないようにと、少し時間にゆとりをもつて、バス停まで歩いていかれました。(亀谷さん3兄弟 埼玉県)
「息子供たちは朝早くから」きのうのおじちゃんはず」と所長の姿を探していました。相変わらず子供供たちに人気のある花工房所長です。



笑顔のあふれる場所がある

つきだて交流館

もりもり



もりもり体験 上半期人気ランキング発表!

- No.1 ●「ピザ焼き体験」
- No.2 ●「流しそうめん体験」

新鮮野菜を収穫し、贅沢なトッピングに焼きだてのおいしさを満喫したピザ焼き体験は、秘密の焼き窯?にも驚きの声があがりました。これなら自宅ですつでも焼きたてのピザが楽しめるはずです。

しょうずにトッピングできました。おいしく焼けるかな



涼を誘う流しそうめんは、食べるまでの過程こそが思い出に残る大満足です。

切な時間だったのではないでしようか!そうめんを流すための竹の切り出し、樋づくり、器づくり、箸づくり、そして火を熾す...全てが現地調達の手づくりでした。



エッ!この竹使うの? よーし、まかせて!

さてこれからのシーズンは! 10月、11月のおすすめ

- いも煮体験:大地の恵みたっぷり、栄養もたっぷり、これぞ田舎の秋の風物詩。
- だんご汁体験:食べた瞬間なぜか心がホッとする、田舎の素材な温かさがつたわります。
- 穏やかに流れる里山の時間の中で食欲の秋を満喫してみてください!



ご案内

- ご宿泊...6500円~(1泊2食、お部屋割りの人数によって料金が変わります)
- 日帰り入浴...大人300円・小学生150円(毎月26日はおフロの日、スタンプ2倍)
- 個室休憩...11時~15時(お得な平日プラン...花なごみコース2800円・陽だまりコース1800円。休憩・入浴・お食事付、どちらも3名様より承ります)
- 平日のみのお得な大広間休憩...10時~15時(休憩と入浴で500円※貸切の場合は利用できないことがあります。あらかじめお問い合わせください)
- ランチ営業 11時30分~13時30分(ラストオーダー)

伊達市誕生間近

〈平成18年1月1日 伊達5町合併〉

私たちの住む月館町は小さいけれど先人たちが歩んだ歴史を心にとめてそこで生きる誇りを忘れずにいたい…

今まで親しみ続けられてきた町名の由来は、大字月館・姥ヶ懐山に残る古跡、「月見館」です。標高238mの丘陵にある月見館は、今からおよそ400年前、「須田伯耆守親重(すだほうしのかみちかしげ)」という武将が住んだ古跡です。(須田伯耆は当時の英傑「伊達政宗」に滅ぼされます。)明治9年、居城跡である「月見館」の名に因み、下糠田村が月館村と変わったのが、今日の月館町のはじまりでした。

時は流れ、今また新しい歴史が始まろうとしています。



大字布川吉ヶ作より町並みを望む

【月館町の沿革】

昭和30年 昭和2年 明治22年

月館町	御代田村	小手川村	布川村	下糠田村	糠田村
月館町	小手村	糠田村	上糠田村	下手渡村	手渡村
明治26年					
旧小島村分川俣町へ編入					小島村

秋のSweets

無花果の赤ワイン煮 (8個分)



花が咲かずに実だけになると思われていたため「無花果」と書かれますが、実際は果実(花托)の中に無数の花が隠れています。夏と秋に出回りますが秋のほうが風味が良いでしょう。

- 材料 無花果8個
赤ワインの蜜煮、黄味クリーム

- A:【蜜煮】水700cc 砂糖350g
赤ワイン140cc レモンスライス3枚
- B:【黄味クリーム】玉子全卵1個、玉子卵黄3個、水(玉子全体の3分の1の量)、グラニュー糖12g、生クリーム20cc、あればバニラエッセンス少々

● 作り方

- ① 無花果の皮をむく
- ② 材料Aを火にかけ、沸騰する直前に無花果を入れ、柔らかくなるまで炊く。
※ポイント…沸騰させないこと、約15分位が目安
- ③ 赤ワインを入れ、沸騰する直前に火を止め、自然に冷ます。
- ④ 材料Bを湯煎にかけ、かき混ぜながら火を通す。
- ⑤ 固まりだしたら湯煎から外し、よく混ぜる。
- ⑥ なめらかになるまで④・⑤を繰り返す。
- ⑦ 最後にうらごし、またはガーゼで漉す。
- ⑧ 密煮した無花果を器に盛り、できあがった黄味クリームを添える。

◎ワンポイントアドバイス

材料Aを火にかけたら、沸騰させないように注意してください。
赤ワインはぶどうの風味を飛ばさないように最後に入れます。

女神神社奥の院



女神山登山道を登りつめると、玄武岩に彫られた祠(ほこら)と石の祠が並んでいるのが女神神社奥の院です。
この地方に養蚕・製糸、織布を広めたといわれる、小手姫様が祀られています。この辺りには珍しい、玄武岩の荒々しい岩肌に神々しさを感じられます。

月読命(つきよみのみこと)が祀られていて、養蚕の神として例祭日(5月2日・十八夜)には宮城県からも参詣者が来たといわれます。
うさぎがお遣いということで、社殿正面右にはうさぎが描かれた扁額も掲げられています。

Kenちゃんが歩いた Furusato no komichi

おすすめポイント①
女神神社奥の院(大字上手渡字女神山)

秋空のもとを歩きながら触れてみませんか！
今忘れかけている
折るころ 信じるころに…

上手渡地区



月の宮神社

おすすめポイント②
月ノ宮神社(大字上手渡字月ノ入)

Kenちゃん
本名:金澤顕治
埼玉県出身 川俣町在住 牡羊座

なすびさんがトライ! 「ミックス野菜ジュース作り」

その日、なすびさんは月館町内を探索し、野菜ジュースの素材となりそうなありとあらゆる?ものをご自分で収穫され、つぎだて花工房に到着されました。特産の葉わさびも入った特製ベジタブジュースのお味はさていかに?
ミオンエテ地区のみなさまは放送をお楽しみに!

ON AIR
テレビユー福島
10月10日(月) AM10:20頃

ドラマでも活躍中の
なすびさん
来館



花工房
ライブラリー

- 朝めし自慢(出井邦子)
- 名店のまかない料理入門(さとうち藍)

花工房BGM

- 月の光に抱かれて(アンドレ・ギヤニオン)
- ベイブス・イン・ザ・ウッド(メアリー・ブラック)

楽・百人一首 23番

月見れば ちちにもこそ 悲しけれ わが身ひとつの 秋にはあらねど
意味=月を見ていると、さまざまな思いに心乱れて、もの悲しい。私ひとりだけに秋が訪れたのではないのに。

おおきの ちさと
大江千里



語り
島岡 安芸和
(しまおか あきと)

秋の夜長の 小さな朗読会 #4

心に染みる季節には、
心に響く物語が
よく似合います。

【プロフィール】

劇団青年座研究所6期生。卒業後、劇団夢の遊眠社を経て森本レオに師事。以後俳優と平行してTV、ラジオのナレーションに数多く出演活躍中。2002年より語りのライブ活動に入る。

木もれ日通信読者のみなさん、こんにちは。今年も秋の朗読会でみなさんと
お会いできることになりました。

今回お届けする「夕鶴」は斎藤所長をはじめとする花工房スタッフと、私たち
出演者が一体となり、花工房らしい作品をお届けしたいと模索し、光を見つけた
作品です。しっかりと話を聴いていただくのはもちろんのこと、視覚、聴覚
的にも楽しんでいただきたいという願いから、今年花工房スタッフが舞台装置
作りに挑みます。また「夕鶴」を今回の朗読会に合わせてオリジナル朗読劇に
脚色しました。音楽もチェロとピアノの音色から一脱して、今年津軽三味線の
演奏に初チャレンジです。

また、2回目となる花工房リーディングアラウドの会の発表作は、宮澤賢治作「よ
だかの星」です。地元メンバーがお届けする賢治ワールドに熱い応援をお願い
いたします。

4年前、手探り状態からスタートした「秋の夜長の小さな朗読会」・・・、今まで
の経験を活かした、つきだて花工房ならではの、本物で魂のこもった『手づくり
エンターテインメント』をどうぞご期待ください。」

出演者◆

- 語り/島岡 安芸和
- 津軽三味線/小山流師範 小山 貢希
- つう/浜田 えり子
- ピアノ演奏/山本 志織
- 構成/松永 さち代

「ストーリー」

命を助けてくれた恩人と与ひよ
うに逢な想いを寄せた鶴、つうは、
人間に姿を変えて与ひよの
妻になりました。ある日、
つうが織った布が町で
高く売れること
を知った惣と

と運ずは、与ひよの純粋さにつけこみ、
つうに布を織らせ大儲けをしようと
企てます。物欲の虜となり人が変わっ
た与ひよに嘆き悲しんだつうでした
が「機を織っているところを決して見
ないこと」を約束に命をにかけて最後
の布を織るのです。しかし与ひよは、
その約束もやぶってしまうのでした。

木下順二 作

夕鶴



今年で4回目を迎える秋の夜長の小さな朗読会は、
日本民話の代表作「鶴の恩返し」を戯曲化した
木下順二作「夕鶴」をお贈りいたします。

月のきれいな
十三夜の夜に
お届けする
朗読会です。



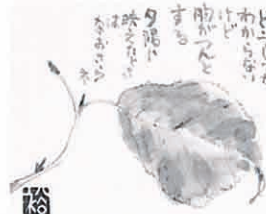
日時
平成17年11月14日(月)
午後7時
場所/つきだて花工房ロビー
◆料金/お一人様 1,000円
◆定員/100名
※チケットは10月5日より
つきだて花工房で発売



◆空とぶくじら組木.....2名様
◆ムーンウオーマー.....1名様

官製はがきに住所、氏名、年齢と木もれ日
22号で印象に残った記事を明記し、プレゼン
ト応募券を貼ってつきだて花工房までお送
りください。平成17年12月31日消印まで有
効です。
◎記入いただいた個人情報につきだて花工房が責任をも
つて管理・保管し、当館のご案内をお送りするほかサービ
ス向上のために利用させていただきます

木もれび 22号プレゼント



福島市・五十嵐裕子様



靈山町・菅野玲子様

●絵手紙教室

【日程】10月24日、11月21日、12月19日(全て月曜日)
【時間】10時から2時間程度
【講師】和田恵秀先生(切絵画家)
【参加費】1,000円(1回)

自分自身と
向き合う
時間を
提案
します
受講者
随時募集中

ムーン講座

INFORMATION

花工房からのお知らせ

10月1日より
送迎運行を
開始いたします。



- 5名様以上で
ご宿泊のお客様
- 15名様以上で
ご宴会等のお客様
- 15名様以上でもりもり体験プ
ログラム利用のお客様
- 送迎の料金はいただきません。
※地域によっては送迎ができない
場合もございます。
- ※ご予約の際にご相談下さい。

月

月の満ち欠けと人々の暮らしが
切り離せない時代がありました

編集後記

いつの頃からか、一日の終わりに夜
空を見上げ、月を探すようになりま
した。月鑑は名前のとおり月の美し
いところです。「照明の消えない高
層ビルや、眠らない都会の街ではこ
うはいかない」など思いながら、今、
ここに住む幸せを実感したりしてい
ます。

合併を目前に、あらためて月鑑と
いう町名に思い入れが深まっている
このころです。新市が誕生し、新た
な歴史が始まりますが、美しい景観
が残るこの町で、昔の人がそうであ
ったように、自然と折り合いをつけな
がら暮らしていくことを大切にしま
いと思っています。(佳代)



月の明かりで疲れた
心を癒したい。
いますぐカレンダーにチェック!!

【満月の夜】 10月17日(月)・11月16日(水)
12月16日(金)

【新月の夜】 11月2日(水)・12月2日(金)
12月31日(土)

木もれ日通信22号
読者プレゼント
応募券